



POCASOKAJAN

PROFILE コミックバンド。メンバーは左から省吾、大久保ノブオ、タマ伸也。1996年に結成。寄席演芸場から大ホール、野外フェスまで音曲ネタで会場をわかせる。アイス「ガリガリ君」CMソング、Eテレ「みんなのうた」など楽曲提供。2014年度、国立演芸場花形演芸大賞・大賞受賞。

ポカスカジャン

なんでもあり、笑いでロックを貫く！

音楽を思いっきり楽しんで、お客さんに笑ってもらおう！コミックバンド「ポカスカジャン」は、フジロックなど人気バンドが出演するロックフェスも、笑いで盛り上げる。メンバーそれぞれがバンドボーカル出身で抜群の演奏にのせたネタが売りだ。

音楽からなぜお笑いに？「30歳を前にワハハ本舗の舞台をみて『なんでもありの舞台、これこそロックだ！』と衝撃を受けた。バンドをやめて、ワハハの社長に入れてほしいと頼み込んだんです。花やしきで開催したワハハのショーからのスタートでした」(O)。

デビューの条件は、3人の音楽ユニット。花やしきで出会った歌のうまい省吾と、後輩のタマ伸也を引き入れ、ネタづくりがはじまった。曲はできてもネタはできない。さんざん悩んで、社長に「『笑ってなんですか？弱いものいじめですか？』って。ある意味そうで、人

と人との関係性や立場が作用して笑いになることもある。そのさじ加減は実践で学んだ」(S)。

結成から半年で2時間の単独ライブに恵まれた。「音楽があったからこそできた。爆笑もとりたいたいけど、演奏して楽しい！それが僕らの強み」(T)。一方、生の舞台の怖さも。「スべるとすぐわかる。ただ、それを越えてネタのエピソードになるのも不思議」(O)。

今年20周年。これまでやってこれたのも、「仕事」の枠を超え、笑ってもらうことの楽しさを味わえたから。「忘れられない本番は、震災後の気仙沼のライブ。揺れるような笑いが起きて、まさにゾーンに入った感じ」(T)。そんなスーパーライブに向かって常に全力投球だ。「目指すはクレイジーキャッツ。個々が強くなるとグループも強くなる。それぞれ新しいことにも挑戦して、芸を磨いていきたい。楽しい笑いで日本を明るくしたい！」(O)